問政策財政課地方創生戦略係 ☎㊿6712

地域おこし協力隊員をご紹介します

十和田湖畔や焼山地区は、観光客の減少や景観の悪化、人口の減少など多くの課題を抱えています。

そこで、当市でも今年度から地域おこし協力隊の制度を導入し、地域活性化に意欲のある人材を公募しました。

その結果、11月１日付で、　　さんを市第１号の地域おこし協力隊隊員に委嘱。　　焼山地区で暮らしながら、新たな地域の魅力創出に向けて、　　活動します。

市民の皆さん、　　協力し合って、世界に誇れる魅力あるまちづくりを進めましょう。

WORD

地域おこし協力隊

地域おこし協力隊とは、地方自治体が都市部の若者を受け入れ、地域おこし協力隊として委嘱し、地域への定住・定着を図りながら地域活性化につなげる総務省の制度。全国の地方自治体で約1,500人の地域おこし協力隊員が活動しています。

地域のかたがたと交流を深め、柔軟に可能性を広げていきたい

地域おこし協力隊に応募した理由は？

　　友人の話から偶然この制度を知りました。自然環境の豊かさと、現代美術館を中心とした創造的な取り組み、そしてそれらの作り出す包括的な印象から、十和田市に興味を持ちました。

十和田市の印象は？

たくさんの“ありのまま”が残っているように感じます。例えば、　　地区では、夜が“きちんと”暗い。自然や『湖をめぐる人の世の情』に触れて、約100年前に大町桂月が蔦に移り住んだという史実など、十和田市とその周辺地域は、潜在的に人を惹きつける魅力を持っているのではないでしょうか。

どのように活動を進めていきますか？

住民のかたと連携を取りながら活動を進めていきます。奥入瀬渓流や十和田湖、南八甲田の自然、または風土や歴史など、固有の地域資源を生かして、　　制作やワークショップを行うことを考えています。

移住セミナーを開催しました

10月17日、東京都のふるさと回帰支援センターで、『十和田市移住セミナー』を開催し、首都圏在住の13組16名の参加がありました。

セミナーでは、十和田市に移住した先輩である坂本雅利（まさとし）さん・淑子（よしこ）さん夫妻（４年前に神奈川県から移住）と安斉将（まさる）さん・香（かおり）さん夫妻（５年前に東京都から移住）が自らの体験談を話し、その後、移住体験者を囲んでの座談会や個別相談会を行いました。

座談会では、参加者から「移住してよかったことは？」「雪の量は？」などといった質問がありました。移住体験者の皆さんは、イメージが伝わるようにわかりやすく、細やかに答え、参加者は十和田市に対して好印象を持った様子でした。

▲座談会の様子。積極的に意見が交わされました